

京都弁護士会の集会

河野洋平氏の ビデオメッセージ

要旨

「この法律をなんとしてもつぶす。その作業を一緒にやりたい」――元自民党総裁、元衆議院議長の河野洋平氏は22日、京都市内で開かれた京都弁護士会の市民集会「戦後70年と安全保障法制を考える」にビデオ映像で出演し、こうのべました。河野氏の発言要旨を紹介します。

河野洋平氏(左)とインタビュする弁護士の諸富健、金杉美和両氏(22日、京都弁護士会の集会で放映されたビデオ映像から)



ば聞くほど、あまり説得力がない。だから、新聞の世論調査も、最初は説明が十分でないからわからない。それが、説明を聞けば聞くほどわからない。時間がないから決着をつけましたというけど、「時間がない」のは、アメリカで「夏まで」と言ってきたからです。

国会の外はたいへんな人が集まって反対の声をあげています。京都大学(有志の会)が詩のようないい声明を出され、全国の若い人たちにも反対が広がっています。国会の建物

のなかだけが賛成だというような民意のかけれど、あまりに主観に基づきすぎて、聞けば政治はこれでいいの

政治の質が変わった。極論をすれば、今の政治は恐怖政治です。反対できない。なぜできないかという

と、党の方針に従わないう者は、次の選挙で公認されないかもしれないという恐怖心があります。内心おかし

いと思うんだけど、上から抑えることになって、民主政治では最も悪い状況です。自民党のなかの人たちが、もう少し大きい声を出してほしい。

安倍さんは、積極的平和主義というけれど、よくわからない。ほんらいの積極的平和主義とは、非核三原則

で核を持てるけど持ちません、武器の輸出はしません、憲法9条をしっかりと持っている。

これが積極的平和主義です。宮沢内閣の時にカンボジアにPKO(国連平和維持活動)で自衛隊を出しました。残念ながら文民警察官が1人亡くなりましたが、は官邸にいましたが、1人の命というのは、家族も両親もいる。国の命令によって、出て行った先で死ぬということ、責任を感じなければならぬ。人命は地球よりも重い。リスクを楽しんでいるようなことは、私は理解できません。

この法律をなんとしてもつぶす。その作業をいっしょにやりたい。立憲主義、民主主義を殺してはいけないから、がんばらなければいけない。ぜひ心ある方々にがんばってほしい。

安倍さんは、いろいろな説明を繰り返されるけれど、あまりに主観に基づきすぎて、聞けば政治はこれでいいの

政治の質が変わった。極論をすれば、今の政治は恐怖政治です。反対できない。なぜできないかという

と、党の方針に従わないう者は、次の選挙で公認されないかもしれないという恐怖心があります。内心おかし

安保法制の話は、合憲か違憲かという議論とついでに行司役です。とありますが、土台がはつきりしていません。その上に家を建てるのは難しいよと自民党幹事長にも申し上げました。歴代内閣法制局長官は違憲ですよという。憲法学者の大部分は違憲だという。それを合憲だといえる最中なので、最高裁が合憲、違憲といえ

“安保法制なんとしてもつぶす”